

# 平均台

著者・発行者  
かぶや亭坊楽 ©

『月刊いしい平均』増刊第10号

161

（小冊子『平均台』からの通しナンバー）

A 「色々便利な物がある中で、化学の恩恵で出来た製品ちゅうのも大したもんじゃな」

B 「確かに！プラスチック、ナイロン…。そんな中で一番細やかに造られたのがビニールだな」

A 「なんで？」

B 「微に入る」

162

兄 「久しぶりにキャッチボールやらないか」

弟 「いいね。それで、ボールやグラブ、あつたつけ？」

兄 「どうかな。―（暫く物置の中をガサゴン）―こりや駄目だ」

弟 「何も無いって？」

兄 「つたくも、こりやミットもねえ話だな」

163

教師 「就活、あれこれ大変だろう。見通しはどうだ？」

学生 「はい有難うございます。お蔭様で楽勝ムードです」

教師 「そりや素晴らしい。今どき珍しいと言えるな」

学生 「内定が全然取れなくて、泣いていました。こうなったら自分で会社を立ち上げて其処へ入ることにしました。ですすから就勝つ」

164

夫 「今年は、伊勢神宮も出雲大社も大きな行事が行なわれたんだな」

妻 「そうね。あれこれ話題があつたわ。お詣り出来ないけど、心の中でお祈り、応援しましょう」

夫 「応援、いいねえ。じゃ飲み物とグラスを出してと」

妻 「何がいいかしら？」

夫 「神社エール」

165

娘 「新聞広告、見てるとカタカナの言葉が増えてるね」

母 「そうね。日本語の便利などでもあるし、やり過ぎると美しさが無くなるわ」

娘 「漢字より読み違いが多い。例えば、トレイをトイレ、ウコンをウンコ」

母 「ああ、やつぱ美しくないか」

166

X 「寒くなったのお。気温が氷点下ちゅう情報が沢山出てるわ」

Y 「氷点下ぐれいで、感心したり、ビクビクすることあねえさ」

X 「おっ！ 豪気だな」

Y 「そうよ、俺んとこじゃあ、1年中かかあ天下だわい」

167

爺さん 「バスは路面から乗れて楽だなあ。ところで、婆さんや、民営のと東京都のとどつちのバスが、スピード出したがつてるか分かるかい？」

婆さん 「それくらい直ぐ分かるよ。正解は都バス、ふっ飛ばすつて言いたいんだろ」

168

マンション業者 「こちらは、日当たりも眺めも非常に良い南向きばかりです」

客 「それじゃダーティで、困るよな」

業者 「と仰いますのは？」

客 「ははは、北無いつて事よ」

169

新作派 「三遊亭円丈師が面白い本を書いたね」

古典派 「『落語家の通信簿』だな。色々ざつくばらんだから毀誉褒貶あるだろうよ」

新 「面白いと言う人、口惜しがってる者、様々の中で、著者ご本人が一番楽しんでるよ」

古 「そうかい。なんでだ？」

新 「だって、円状イだもん」

170

居酒屋の客 「おーい、これとこれとこれ、頼む」

女将 「はーい。これとこれとこれ、ですな」

客 「俺は、酔っ払ってて面倒なもので、ただ指さして言ったが、女将、大丈夫かい」

女将 「ええ、里芋の煮転がしに、蒟蒻に… あとは…」

客 「それ見る。言わんこつちやねえな。ちゃんと確認しろや」

女将 「思い出した！ 豚の角煮」

